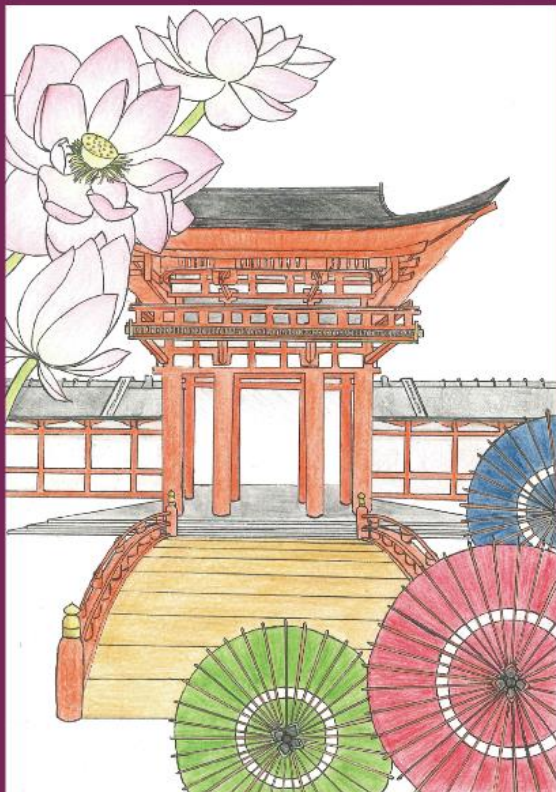


令和5年度

第40回記念大会
公益財団法人
日本中学校体育連盟研究大会



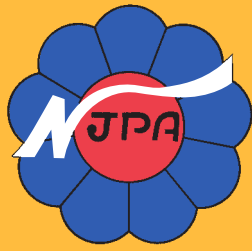
令和6年

1/18(木)・19(金)

ANAクラウンプラザホテル京都

主催／(公財)日本中学校体育連盟・近畿中学校体育連盟
京都府教育委員会・京都市教育委員会
主管／京都府中学校体育連盟
後援／スポーツ庁・全日本中学校長会
京都府中学校長会・京都市立中学校長会
(公財)日本教育公務員弘済会京都支部





公益財団法人 日本中学校体育連盟

公益財団法人 日本中学校体育連盟シンボルマーク・中体連旗について

(公財)日本中学校体育連盟は、全国中学校体育連盟 33 年の歴史の上に立って、平成元年 2 月に発足した。それまでの輝かしい歴史を継承し、未来に向かって力強く飛躍することを願い、新たに日本中体連のシンボルマーク、並びに中体連旗を設定した。

制定年月日は、平成元年8月31日

*日本中体連は、中学生の心身の育成、体力の増強及び体育・スポーツ活動の振興を目的として活動するものである。

*日本中体連は、国際理解教育の一環として中学校の体育・スポーツ活動を通して、国際交流を推進するものである。

この基本理念を基に「明るく希望にもえ躍動する姿」をイメージし、全国都道府県中体連と9つのブロック中体連の連帯を表し、Nippon Junior High School Physical Culture Association の頭文字を中心に図案化した。

・中心の円の赤は、情熱・希望を表し、円を縁どる九輪を青（コバルトブルー）とし、未来への限りなき躍進、N の文字には白色を配し、若人のもつ純真さを表した。

・中体連旗の黄色は、快活・陽気・幸福等の象徴であり、また全国中体連の歴史を引継ぐ色である。

(公財)日本中学校体育連盟憲章

- 一、体育・スポーツ活動を通して、人間尊重の精神にみち、心豊かな人間の育成に努める。
- 一、体育・スポーツ文化の継承とその進展に寄与し、生涯スポーツ活動の推進に努める。
- 一、体育・スポーツの国際交流を通して、中学生の国際理解の推進と国際スポーツの振興に努める。



挨拶

(公財)日本中学校体育連盟

会長 齊藤正富

794年の平安遷都より、1869年まで日本の首都として1000年以上の歴史があったことから「古都」と称される京都府京都市において、令和5年度第40回記念大会公益財団法人日本中学校体育連盟研究大会京都大会が開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。また、本大会を共催していただきました京都府教育委員会、京都市教育委員会、近畿中学校体育連盟、そして御後援を賜りましたスポーツ庁、全日本中学校長会、京都府中学校長会、京都市中学校長会、公益財団法人日本教育公務員弘済会京都支部の皆様にご礼申し上げますとともに、主管されます京都府中学校体育連盟の皆様の御尽力に心より感謝申し上げます。

さて、現行の学習指導要領において、「部活動」は、生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きいことから、学校の教育活動の一環であるとされています。しかしながら、少子化により、従前と同様の運営体制で維持することが難しくなっていたり、休日の活動も含めて教師の献身的な勤務によって支えられていることから、長時間勤務の要因になっていたりする実態があります。そのため、「部活動」については「将来にわたっての持続可能性」と「教師の働き方改革の推進」との両面から課題解決を図る必要があります。

令和4年6月6日にスポーツ庁長官に手交された「運動部活動の地域移行に関する検討会議：提言」は、少子化の中、将来にわたり我が国の子供たちがスポーツに継続して親しむことができる機会の確保に向けて、まずは、休日の運動部活動の地域移行を達成していこうとするものです。また、情報化の急速な進展により、社会が大きく変化する中で、AIなどの技術革新が進むSociety5.0という新たな時代に対応するため、学校教育も変革が求められています。

このように、今は、国の動向や学習指導要領等を踏まえ、「知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成」及び「生涯にわたってスポーツに親しむことができる生徒の育成」を求め、「運動部活動の更なる発展」を考えなくてはならない時代です。これらの課題解決には、各都道府県中学校体育連盟の皆様の御支援と御協力が不可欠となります。改めてお願い申し上げます。

結びに、本研究大会の開催に向けて御準備いただきました京都府中学校体育連盟の皆様にご敬意を表するとともに、本研究大会の成功と全国から参加されております会員の皆様の益々の御活躍を祈念し、大会の挨拶といたします。



挨拶

京都府教育委員会

教育長 前川 明 範

令和5年度第40回記念大会公益財団法人日本中学校体育連盟研究大会が、ここ京都府において開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、貴連盟におかれましては、平素から全国の中学校生徒の健全な心身の育成、体力の向上及び体育・スポーツの振興を図り、中学校教育の充実と発展に御尽力いただくとともに、本大会の開催に向けて格別の御配慮をいただき、深く感謝申し上げます。

さて、本府では、学校教育の重点として「健やかな身体の育成」を掲げ、「スポーツごころ」をはぐくむ教育やライフステージやライフスタイルに応じた誰もが親しむ生涯スポーツの推進に取り組んでおります。「スポーツごころ」とは、「感動」「楽しみ」「向上」「健康」「挑戦」「つながり」「公正」といった、人々が日々の生活の中で「よっ!」「さあ!」「やってみよう!」という前向きで積極的な心のありようの総称です。この「スポーツごころ」をはぐくむことにより、生徒一人一人が自信を深め、目標に向かって挑戦し続けることを願っています。

本研究大会は、当面する諸課題及びこれからのよりよい体育・運動部活動の目指す方向等について、日頃の実践的な研究成果を発表し、研究協議と情報交換の機会とすることにより、生涯スポーツの充実・発展に資することが目的とされております。本研究大会を通して、生徒が将来にわたって心身ともに健やかな生活を送る資質・能力を育むことにつながり、全国の各中学校において、中学生にとっての充実した持続可能な体育・運動部活動が発展されることを期待しております。

また、昨今、子どもたちのスポーツに親しむ機会を維持していくために、部活動の地域移行・地域連携が進められております。今年度より、全国中学校総合体育大会においても、今まで部員が揃わず大会に出ることの叶わなかった生徒が、地域クラブとして出場できるようになりました。学校でも学校外でもスポーツ活動ができる環境が整っていくなど、中学生にとっては部活動の在り方が少しずつ変化しつつあります。しかしながら、スポーツに励む中学生の成長にとって、指導者が大変重要な役割を担うということ、そして、指導者がそのことを自覚し、学び続ける必要があるということには変わりはなく、改革の動きを注視する一方で、こうした「変わらないこと」にも目を向け、大切にしていきたいと考えております。

結びに本大会の開催に当たり、御尽力いただきました全ての関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、大会の成功と貴連盟のますますの御発展を祈念申し上げまして挨拶とさせていただきます。

歓迎の挨拶



京都市教育長

稲田 新吾

令和5年度第40回記念大会公益財団法人日本中学校体育連盟研究大会京都大会が開催されますことを心からお喜び申し上げます。また、貴連盟におかれましては、中学校体育に関する調査研究を通じて、中学生の健全な心身の発育・発達、体力・運動能力の向上および体育・スポーツ活動の振興を図り、中学校教育の充実と発展にご尽力されておりますことに、深く感謝と敬意を表します。

現在、全国各地では運動部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備などに関する議論が進められております。本市においても、部活動地域移行に向けた実証研究に取り組むとともに、令和4年11月には全庁的な検討組織「部活動の地域移行に向けた推進チーム」を立ち上げ、部活動の地域移行に当たって、子ども・若者のスポーツ・文化活動の機会充実はもとより、市民スポーツ振興、地域コミュニティの活性化、さらには子育て環境の充実に資することを旨とした検討を行うなど、積極的に取組を進めているところです。

本大会のシンポジウムでは、「中学生にとって、運動部活動の存在とは～“変化”に期待すること～」をテーマに様々な種目のオリンピックやプロの選手の皆様にもご参加いただき、これまでのご経験や活動内容をお話いただける、非常に貴重な機会です。また、分科会においても、運動部活動などに関する様々なテーマに基づき、活発な議論や研究発表が行われることと存じます。本大会での取組で得た成果を、生徒の豊かな心と健康を育むとともに、全国からお集まりいただいた多くの皆様にとりまして、実りのある2日間となれば幸いです。

結びに本研究大会のご盛会と公益財団法人日本中学校体育連盟ならびに各関係団体の益々のご発展、ご参会の皆様のご活躍を祈念申し上げ、挨拶といたします。

祝 辞



スポーツ庁長官

室伏 広治

令和5年度第40回記念大会公益財団法人日本中学校体育連盟研究大会が、京都府京都市で開催されますことに、お祝い申し上げます。

中学校体育の関係の皆様におかれましては、安全安心な各種大会の開催や部活動を通して、中学生の健全な心身の育成や競技力の向上、生涯スポーツ実践の基礎づくりに御尽力いただき厚く御礼申し上げます。

今回、「豊かなスポーツライフの実現に向けて」を研究主題に、全国の中学校の体育・運動部活動指導者の皆様一堂に会し、日頃の実践的な研究成果を発表し、研究協議と情報交換が行われることは、中学校の体育・運動部活動の適正な実施に向けて、大変意義深いものです。

スポーツ庁では、令和4年12月に、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定しました。その中で、将来にわたり子供たちがスポーツ活動に継続して親しむ機会を確保するため、令和5年度から3年間を改革推進期間と位置付け、休日の運動部活動の地域連携・地域移行について、地域の実情に応じて可能な限り早期に実現を目指すこととしております。

また、全国中学校体育大会においては、令和5年度から新たに地域スポーツクラブに所属する生徒の参加が認められることとなりました。各地域の大会を含め、参加資格の調整など大会運営の見直しに御尽力いただいた関係の皆様に対し、心から感謝申し上げます。引き続き、国・自治体における部活動改革の取組なども踏まえ、令和6年度に向けた競技部細則の見直しや都道府県や市区町村をまたいだ大会参加が可能となる対応について御検討いただき、地域のスポーツクラブに所属する中学生のより一層の大会参加機会の確保に努めてくださるようお願いいたします。

本研究大会に参加される皆様におかれましては、部活動改革と併せて、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶に向けた取組についても、確実かつ適切な実施が徹底されますよう、必要な対応をお願いいたします。また、将来に向けて持続可能なスポーツ環境の在り方について、この機会に活発に御協議いただき、それぞれの地域において、生徒の多様なニーズを踏まえた取組を積極的に推進くださるようお願いいたします。

結びに、本研究大会の開催に御尽力された公益財団法人日本中学校体育連盟をはじめ、関係の皆様々に敬意を表するとともに、大会の成功を祈念して、お祝いの言葉といたします。

挨拶



第40回記念大会（公財）日本中学校体育連盟研究大会

京都大会実行委員会 会長

京都府中学校体育連盟 会長

野川 晋 司

令和5年度（公財）日本中学校体育連盟研究大会京都大会が、古都・京都において第40回記念大会として開催されますことは、我々関係者にとりまして大変光栄なことであり、喜ばしいことでもあります。近畿中学校体育連盟・京都府中学校体育連盟は、全国各地よりお越しく下さいました皆さまを心より歓迎いたします。

現在、中学校の運動部活動は大きな過渡期を迎えています。部活動の地域移行、全国中学校体育大会への地域クラブ活動の参加、少子化による部員数の減少、教員の働き方改革等々、課題山積ではありますが、各都道府県や地区・地域でそれぞれの実態や条件の異なる状況の中で、中体連事業の運営や主催大会の在り方等の改革に向けて日々、苦勞されていることと拝察いたします。

さて、本研究大会は「豊かなスポーツライフの実現に向けて～持続可能な運動部活動の在り方と中体連の役割～」という研究主題のもと、各都道府県中学校体育連盟の指導者たちが課題解決に向けて協議する大会となります。各都道府県中学校体育連盟が抱える課題を出し合い、解決に向けた方策や協議が深められることを期待しております。講演会では『中体連と全中の歴史～これからの中学校運動部活動を考えるために～』と題して早稲田大学・中澤篤史教授にご講演いただきます。また、各分野でご活躍の皆さまをお招きし、シンポジウム『中学生にとっての運動部活動の存在とは ～“変化”に期待すること～』を開催いたします。いずれも、ご参会の皆さまにとっては貴重な内容であり、今後の運動部活動や中体連事業の改革へのヒントとなり支えになるものと思っております。

本研究大会会場の目の前には世界文化遺産の二条城が見えており、京都は伝統文化を色濃く残し、歴史ある文化遺産や名所も数多くあります。遠方よりお越しいただいたせっかくのこの機会に冬の美しい古都・京都を散策されるのは如何でしょうか。

結びに、本研究大会の開催にあたり、京都府教育委員会・京都市教育委員会、（公財）日本中学校体育連盟、並びに各関係機関の皆さま方からのご指導とご協力に対しまして心から深く感謝申し上げます、あいさついたします。

挨拶



石川県中学校体育連盟

会長 可長 俊太

令和5年度第40回（公財）日本中学校体育連盟研究大会が、歴史と風情溢れる京都市で開催されるにあたり、次期開催県としまして、お世話になります皆様に一言ごあいさつ申し上げます。

新型コロナウイルスが「5類」に移行となり、行動制限がなくなり様々な活動がコロナ禍前に戻りつつある中、事前に準備をされてこられました関係者の皆様に深く敬意と祝意を表します。

今年度の夏は、「君の夢 四国の蒼空（そら）で 咲きほこれ」のスローガンのもと全国中学校体育大会が四国ブロックで開催されました。行動制限が緩和された中での大会では、多くの保護者、関係者の方々の声援を受けながら、四国の蒼空の下で夢に向かって頑張る選手の皆さんの姿が印象的で、大変素晴らしい大会となったのではないのでしょうか。

さて、本研究大会は「豊かなスポーツライフの実現に向けて～持続可能な運動部活動の在り方と中体連の役割～」という研究主題のもと、各都道府県中学校体育連盟の指導者たちが問題解決に向けて協議する場です。各都道府県中学校体育連盟が抱える課題を出し合い、解決に向けた方策や協議が深められることを期待します。

令和6年度の本研究大会は北信越ブロックの開催となり、石川県中学校体育連盟が北信越各県の協力のもとに主管し、金沢市で開催します。近年においては、部活動の地域移行や地域クラブチームの大会参加等、様々な課題が山積している中ですが、各都道府県のご助言をいただきながら、実のある第41回大会となるように準備してまいりたいと考えています。

開催地の金沢市は、加賀藩前田家の城下町として栄え、加賀友禅や金箔、九谷焼などの伝統工芸や、能楽や加賀万歳などの多くの伝統芸能が受け継がれてきた歴史と文化の街で、令和6年3月16日には、北陸新幹線の金沢～敦賀間が開業します。全国からの多数のご参加を心よりお待ちしております。

結びに、本研究大会の開催にあたり、組織をあげての準備や運営にご尽力されました京都府中学校体育連盟の皆様をはじめ、すべての関係者の皆様に心からの感謝を申し上げますとともに、京都大会の盛会を祈念いたしまして、次期開催県のごあいさつとさせていただきます。

令和5年度 第40回記念大会（公財）日本中学校体育連盟研究大会京都大会要項

- 1 趣 旨 (公財)日本中学校体育連盟(以下、本連盟という)は、本連盟に加盟する中学校の体育・運動部活動指導者が一堂に会し、当面する諸課題及びこれからのよりよい体育・運動部活動の目指す方向等について、日頃の実践的な研究成果を発表し、研究協議と情報交換をする機会とすることにより、生涯スポーツの充実・発展を資するために、(公財)日本中学校体育連盟研究大会を開催する。
- 2 主 催 (公財)日本中学校体育連盟 近畿中学校体育連盟
京都府教育委員会 京都市教育委員会
- 3 主 管 京都府中学校体育連盟
- 4 後 援 スポーツ庁 全日本中学校長会 京都府中学校長会
京都市立中学校長会 (公財)日本教育公務員弘済会京都支部
- 5 日 時 令和6年1月18日(木) 12:45~17:00 【第1日目】
1月19日(金) 9:00~11:30 【第2日目】
- 6 会 場 ANAクラウンプラザホテル京都
〒604-0055 京都市中京区堀川通二条下ル土橋町10番地
Tel:075-231-1155 Fax:075-231-5333
- 7 参加対象 (公財)日本中学校体育連盟に加盟している都道府県中体連から8名以内とする。
但し、特別賛助会員は、各社各分科会に2名以内の参加を認める。
- 8 研究主題とその内容
(1) 研究主題 「豊かなスポーツライフの実現に向けて
～持続可能な運動部活動の在り方と中体連の役割～」
(2) 内 容
① 全体会
A 講演
演 題:『中体連と全中の歴史
～これからの中学校運動部活動を考えるために～』
講 師:早稲田大学 スポーツ科学学術院 教授 中澤 篤史 氏
B シンポジウム
協議題:『中学生にとっての運動部活動の存在とは
～“変化”に期待すること～』
○コーディネーター
森脇 健児 氏 松竹芸能株式会社 タレント
○シンポジスト
大村 加奈子 氏(京都府立北嵯峨高等学校 教諭 バレーボール部 顧問)
高岡 寿成 氏(花王株式会社 陸上競技部 監督)
平野 佳寿 氏(オリックス・バファローズ 選手)
宇津木 美都 氏(大阪体育大学 水上競技部 選手)
② 分科会
次のテーマごとに分科会を設け、パネルディスカッション形式により研究発表及び研究協議を行う。研究発表が割り当たっている当該中体連の発表者はパネリストとなる。

- 第1分科会 (中体連の組織・運営)
「中体連の組織及び競技会の在り方とその運営」
・望ましい中体連組織の運営及び諸課題への対応
・望ましい競技会及び諸課題への対応
- 第2分科会 (育成・健康安全)
「豊かな心と健やかな体を育む運動部活動」
・生徒の主体的・協働的な力を育む運動部活動の運営
・意欲を喚起させる運動部活動経営
・競技力向上や健康体力の保持増進を目指した運動部活動
・運動部活動における健康安全管理
- 第3分科会 (連携)
「連携でつくる運動部活動」
・学校教育活動との関連・連携による運動部活動の活性化
・地域単位で支える運動部活動経営の在り方
・部活動指導員及び外部指導者の活用と連携
・関係諸機関及びスポーツ団体との連携・協力の在り方
- 第4分科会 (課題対応)
「当面する運動部活動の諸問題」
・生徒減少期における運動部活動の在り方
・指導者の資質向上
・持続可能な学校運動部活動の運営

9 日 程

第一日	10:00	12:00	12:45	13:25	14:45	15:00	16:50	17:00
	司会者・発表者 助言者・記録者 運営責任者 打合会 (機器調整を含む)	受付	開会行事	講演	休憩	シンポジウム	次年度挨拶	

第二日	8:45	9:00	11:20	11:30
	受付	分科会 研究発表及び協議 (パネルディスカッション)	分科会 会行 別事	

10 発表者及び提出資料

(1) 研究発表担当都道府県及び順序(発表時間15分程度)

形 式	第1分科会	第2分科会	第3分科会	第4分科会
研究発表 (パネリスト)	北信越・石川 関東・茨城	東海・愛知 東北・秋田	北海道 中国・岡山	四国・徳島 九州・宮崎
紙上発表	近畿・兵庫	近畿・滋賀	近畿・和歌山	近畿・大阪
指導助言者	(公財) 日本中学校体育連盟			
	近畿・兵庫	近畿・滋賀	近畿・和歌山	近畿・大阪
司会者	近畿・兵庫	近畿・滋賀	近畿・和歌山	近畿・大阪
運営責任者	実行委員会(京都府中学校体育連盟)			
記録者	実行委員会(京都府中学校体育連盟)			

- (2) 提出資料の種類
- ① 研究発表担当都道府県中体連からの提出資料
 - ・分科会の研究主題に基づいた実践研究の成果
 - ② その他
 - ・都道府県または学校の優秀な資料
- (3) 提出資料の取り扱い
上記①・②の各資料を研究紀要としてまとめ、各都道府県中体連・司会者・助言者等には事前に送付する。
- (4) 提出資料の作成要領
- ① 研究発表担当都道府県中体連からの提出資料
資料は、分科会ごとの研究テーマに沿って各都道府県中体連で特に解決を迫られている課題、かつ将来的にかかるべきとする提言等について、具体的な案をまとめて作成する。分科会のサブテーマとして挙げられているものの中から選ぶか、それに関連するテーマを独自に取り上げてよい。
 - ② その他
 - 提出原稿
 - ・ワープロソフト「Word」を使用する。
 - ・ワープロ規格A4判（横40字×縦36行）により、4枚にまとめる。
 - ・発表で使用するプレゼンテーションソフトは「パワーポイント」を使用する。（原稿・資料のデジタルデータを送付する）
 - ・研究物、資料があれば別途提出する。
 - ・提出原稿の図表等は明瞭なものにする。
 - ・大会終了後、研究紀要等を（公財）日本中学校体育連盟のホームページに掲載する。
- (5) 提出方法
- | | |
|----------|---|
| ① 発表者の報告 | 令和5年9月15日（金） |
| ② 原稿提出期日 | 令和5年10月27日（金） |
| ③ 提出先 | 〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町
京都府教育庁指導部保健体育課内
京都府中学校体育連盟事務局
浅野 勇人
Tel 075-414-5862 Fax 075-414-5863
E-mail chutairen@kyoto-be.ne.jp |

11 参加申込及び参加費

- (1) 申込方法
※申込フォームよりweb申込を行う。
(京都府中体連のHPよりリンクあり)
- (2) 申込締切日 令和5年10月31日（火）
- (3) 申込先 別紙宿泊要項による
- (4) 参加費 一人 6,000円

12 その他

- (1) (公財) 日本中学校体育連盟研究部会の開催
- | | | |
|----|--|----------------|
| 日時 | 令和6年1月17日（水） | 14:00～16:00 |
| | 1月18日（木） | 9:00～10:00（予備） |
| 会場 | ANAクラウンプラザホテル京都
〒604-0055 京都市中京区堀川通二条下ル土橋町10番地
Tel: 075-231-1155 Fax: 075-231-5333 | |
- (2) 宿泊については別紙宿泊要項による。
- (3) 医療、救護については、別紙に記載

令和5年度 第40回記念大会(公財)日本中学校体育連盟研究大会 京 都 大 会 日 程

一 日 目	10:00	12:00	12:45	13:15	13:25	14:45	15:00	16:50	17:00
	司会者・発表者 助言者・記録者 運営責任者 打合会	受 付	開 会 行 事	講 演 準 備	講 演	休 憩	シ ン ポ ジ ウ ム	次 年 度 挨 拶	

二 日 目	8:45	9:00		11:20	11:30
	受 付	分科会 研究発表及び協議 (パネルディスカッション)	分科会 別閉会 行事		

【1日目 1月18日(木)】

会 場 : A N A ク ラ ウ ン プ ラ ザ ホ テ ル 京 都

1 開会行事 12:45~13:15 2階 平安

- | | | |
|-----------------------|-----------------|-------|
| (1) 開会のことば | 京都府中学校体育連盟副会長 | 井上 達夫 |
| (2) 国歌、(公財)日本中学校体育連盟歌 | 斉唱 | |
| (3) 主催者あいさつ | (公財)日本中学校体育連盟会長 | 齊藤 正富 |
| | 京都府教育委員会教育長 | 前川 明範 |
| (4) 祝辞 | スポーツ庁地域スポーツ課長 | 橋田 裕 |
| (5) 歓迎のことば | 京 都 市 教 育 長 | 稲田 新吾 |
| (6) 来賓紹介 | 京都府中学校体育連盟副会長 | 川口 研一 |
| (7) 基調報告 | 京都府中学校体育連盟会長 | 野川 晋司 |
| ※ 日程説明 | 京都府中学校体育連盟理事長 | 岸本 卓也 |

2 講 演 13:25~14:45 2階 平安

- | | | |
|------|-----------------------------------|-------------------|
| 講師紹介 | 京都府中学校体育連盟副理事長 | 北村 眞也 |
| 演 題 | 『中体連と全中の歴史~これからの中学校運動部活動を考えるために~』 | |
| 講 師 | 早稲田大学教授 | スポーツ科学学術院 中澤 篤史 氏 |
| 謝 辞 | 京都府中学校体育連盟副会長 | 川口 研一 |

3 シンポジウム 15:00~16:50 2階 平安

『中学生にとっての運動部活動の存在とは ~“変化”に期待すること~』

- ・コーディネーター
森脇 健児 氏 (松竹芸能株式会社 タレント)
- ・シンポジスト
大村 加奈子 氏 (京都府立北嵯峨高等学校 教諭 バレーボール部 顧問)
高岡 寿成 氏 (花王株式会社 陸上競技部 監督)
平野 佳寿 氏 (オリックス・バファローズ 選手)
宇津木 美都 氏 (大阪体育大学 水上競技部 選手)

次期開催地あいさつ 石川県中学校体育連盟会長 可長 俊太

【2日目 1月19日(金)】

会場：ANAクラウンプラザホテル京都

4 分科会 9:00~11:20

第1分科会(2階 平安①)

『中体連の組織及び競技会の在り方とその運営』

パネリスト	石川県中学校体育連盟	参	与	吉本	祐
	茨城県中学校体育連盟	副	会	長	石川
紙上発表	兵庫県中学校体育連盟	副	会	長	大槻
助言者	(公財)日本中学校体育連盟	副	会	長	田中
	兵庫県中学校体育連盟	会	長	角南	寛
司会者	兵庫県中学校体育連盟	理	事	長	高尾
運営責任者	京都大会実行委員会	副	会	長	川口

第2分科会(2階 平安②)

『豊かな心と健やかな体を育む運動部活動』

パネリスト	愛知県中小学校体育連盟	研究部協力員	三山	直彦
	秋田県中学校体育連盟	研究委員	成田	裕一郎
		研究委員	鎌田	祐輔
紙上発表	滋賀県中学校体育連盟	研究部委員	中村	翔馬
助言者	(公財)日本中学校体育連盟	副	会	長
	滋賀県中学校体育連盟	会	長	高田
司会者	滋賀県中学校体育連盟	理	事	長
運営責任者	京都大会実行委員会	副	会	長

第3分科会(2階 平安③)

『連携でつくる運動部活動』

パネリスト	北海道中学校体育連盟	調査研究専門委員	三根	貫太郎
	岡山県中学校体育連盟	調査研究部理事長	山地	美秀
紙上発表	和歌山県中学校体育連盟	理	事	会
助言者	(公財)日本中学校体育連盟	副	会	長
	和歌山県中学校体育連盟	会	長	吉川
司会者	和歌山県中学校体育連盟	副	会	長
運営責任者	京都大会実行委員会	副	会	長

第4分科会(2階 朱雀)

『当面する運動部活動の諸問題』

パネリスト	徳島県中学校体育連盟	事務局次長	近藤	俊一郎
	宮崎県中学校体育連盟	副	理	事
紙上発表	大阪中学校体育連盟	副	理	事
助言者	(公財)日本中学校体育連盟	副	会	長
	大阪中学校体育連盟	理	事	長
司会者	大阪中学校体育連盟	顧	問	
運営責任者	京都大会実行委員会	副	会	長

5 閉会行事 11:20~11:30 各分科会場

- (1) 開催府あいさつ 京都府中学校体育連盟代表
(2) 閉会のことば

基 調 報 告

第40回記念大会（公財）日本中学校体育連盟
研究大会京都大会実行委員会 会長

野 川 晋 司

昨今、学校における部活動は少子化や働き方改革、部活動の地域移行の影響を大きく受け、過渡期を迎えています。そして、中学生にとって、部活動の存在が大きく変わろうとしています。長年、部活動は学校教育の一環として行われ、中学生の自己の成長の場として、競技や活動を通じて、チームメンバーと協力することにより、リーダーシップやスキルを、さらには困難を回避するための自己決定力、挫折を乗り越えるための精神力を身に付けるといった中学生にとって大きな役割を果たしてきました。一方、部員や指導者の確保、部活動指導による超過勤務等、課題が山積であることも事実です。

令和5年度全国中学校体育大会より、地域クラブ活動の参加が特例として認められました。昨年度より（公財）日本中学校体育連盟を中心とし、各都道府県で議論を重ね、何とか大会を迎えることができました。今年度の反省を受けて、引き続き、議論を重ね、改善していくことが大切となります。

本研究大会も昭和60年に開催された第1回東京大会から始まり、今回の京都大会で第40回記念の節目を迎えます。第1回目の研究主題は「生涯体育を指向した部活動の在り方」でした。そして、今回の研究主題は3年目を迎える「豊かなスポーツライフの実現に向けて～持続可能な運動部活動の在り方と中体連の役割～」となります。講演会やシンポジウムの中で、専門的な知識や経験を聞かせていただき、また、分科会では各都道府県の異なった環境での取組や実践事例の情報交換や意見交流を行い、そして、それらを通じて、今後の運動部活動の在り方について考えるきっかけの場にしたいと考えます。

結びに、本研究大会が、（公財）日本中学校体育連盟の発展はもとより、運動部活動に携わる多くの方々の飛躍につながることを祈念いたしまして、基調報告とさせていただきます。